

下大静脈起源による心房頻拍の1乳児例

森島 直美 濱本 邦洋 橋本 淳一
吉兼由佳子 安元 佐和 満留 昭久

福岡大学医学部小児科学教室

要旨：発生起源が下大静脈にあると思われる3生月女児の心房頻拍の症例を経験した。アデノシン三リン酸（ATP）ジゴキシン，プロカインアミド等の薬剤に抵抗性でピルジカイニドが有効であった。頻拍停止後，心電図は150/分の洞調律になった。心臓超音波検査では右心房は心電図に同期して150/分で拍動していたが，下大静脈は300/分で拍動していた。心電図上は洞調律であるが下大静脈起源の心房頻拍は持続しており，下大静脈の心筋組織の局在が心房頻拍を起こしたものと考えられる。乳幼児の心房頻拍の起源を考える上で貴重な症例であるので報告する。

キーワード：心房頻拍，下大静脈